

特別展「2015年の自然遊学館の出来事」

場所：貝塚市立自然遊学館多目的室

期間：2016年3月2日～4月10日

2015年の自然遊学館の出来事展を開催するに 当たって

平成5年（1993年）10月に建てられた自然遊学館は今年で22年を過ぎました。雨漏りがあった、当会場（多目的室）も遊学館の改良工事で修理され、雨漏りの心配から解放されたことは前回お知らせしました。その成果でしょうか？平成27年度は当会場の目的外使用（賃借）依頼が数件ありました。話の筋道がずれてしまいましたが、そんな遊学館から特別展『2015年の自然遊学館の出来事展』を開催いたします。どうぞ、お楽しみください。

自然遊学館の事業3本柱

1. 観察・調査活動事業

開館当時から貝塚市全体の自然の観察・調査を続けています。その結果は季刊誌『自然遊学館だより』や報告書『貝塚の自然』で皆様にお届けしています。また、大阪府からの委託で平成24年から行っている近木川汽水域の自然再生事業、『近木川汽水ワンド』の観察・調査は、来年度の調査で完了します。

2. 展示・普及活動事業

館内の展示物は随時更新し、自然観察会として多くの普及行事を行っています。従来の行事に加え、6月『親子釣り体験』（初心者親子対象）、9月『近木川の鮎調べ』、10月貝塚市立善兵衛ランドとの共催事業『虫と星の観察会』が増え、人気行事になりました。他にも、海の学びミュージアムサポート支援事業を行いました。この事業に関する詳細は改めて皆様にご報告できると思います。

他にも出前授業や各事業所や機関の観察会への講師派遣、各学校からの団体見学や職場体験の受け入れを行い、普及に努めています。

特別展「2015年の自然遊学館の出来事」

～ 貝塚市の生きものの記録や自然遊学館の活動を紹介します ～



場所：貝塚市立自然遊学館多目的室

期間：2016年3月2日（水）～4月10日（日）

貝塚市二色丁目26-1 水鉄バス「市民の森」バス停下車徒歩1分

Tel. 072-431-8457 火曜日は休館日です。ご注意ください。

3. 維持・管理事業

自然遊学館には来館していただいた皆様に驚かすような大きな仕掛けはありませんが、自然に親しみ、自然を大切に育てる心を育てる仕掛けはたくさんあります。来館された皆様がゆっくり見学していただけるよう維持管理に努めています。

最後に『2015年の自然遊学館の出来事』開催に際し、多くの皆様にご協力をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

2016年3月
貝塚市立自然遊学館
館長 高橋 寛幸

展示会場の様子



展示内容

1. 写真と解説文

2015年1月から12月までの主な出来事の写真（A3用紙に印刷）と解説
以下に、写真と解説文を掲載しました。

2. スライドショー

A3で印刷したものも含めて100枚の動植物の写真を大型モニターで20秒ごとに日付順に入れ替わるように提示しました（以下に、写真のリストを掲載しました）。

3. 昆虫標本

2015年に貝塚市内で採集された主な昆虫標本、自然生態園「トンボの池」で採集されたトンボの羽化殻、および市民の森で採集されたクマバチの巣の跡を展示しました。

4. 貝殻標本

8月にウミガメ産卵地見学で行った和歌山県南部千里ヶ浜と兵庫県由良成ヶ島で採集された貝殻の標本を展示しました。

5. 生きものカード

表面に生きものの写真、裏面に種名と貝塚市内の生息場所を示した六角形のカードを、貝塚市の地図上に置いて、触ってみてもらえるように展示しました。

6. 千石荘樹木調査の解説と樹木写真

2015年3月末までに調査した291本の大木の内訳、および主な樹種の写真を展示しました。

7. 行事一覧

2015年1月から12月にかけて行った行事の一覧を写真とともに示しました。

1. 写真と解説文

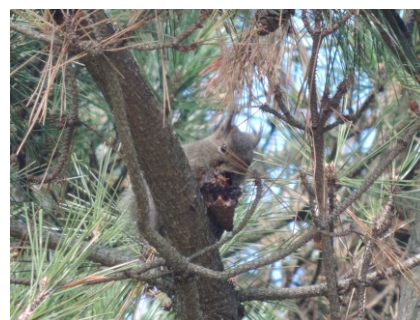
以下で紹介する出来事と写真は、すべて貝塚市内で撮影されたものです。それぞれの出来事について、タイトル、撮影日、撮影場所、1行コメント、分類群（目と科）、解説文、写真、写真提供者を示しました。撮影者名がない写真は自然遊学館の職員が撮影したものです。

ホンドリス・・・2015年1月20日、和泉葛城山

できたてのえびフライ

ネズミ目 リス科

山頂での鳥類調査の時、アカマツの枝上でホンドリスが松ぼっくりの種を食べていました。1つ食べ終わると別の1つを採りに行って、この場所に戻ってきて食べます。これを何度も繰り返して、20回ほどは見たと思います。食べ終わった松ぼっくりは、その形から「えびフライ」と呼ばれています。そのえびフライがアカマツの根元に何十個も落ちていました。リスの唾液の付いた「できたてのえびフライ」も拾うことができました。



ホンドリス

ノハラノイシノシタ・・・2015年2月7日、貝塚人工島

野原の石の下には何がいる？

柄眼目 イシノシタ科

文字通り、居場所の名前が付けられた、北米原産の外来種のカタツムリです。和田太一さん（NPO 法人南港ウェットランドグループ）と一緒にいった貝塚人工島での調査で、石の下から見つかりました。在来種のカタツムリとよく似ていますが、それよりも殻がキラキラしていて、半透明な殻を通して外套に鮮やかなオレンジ色の色素があるのが見えることや、触角の先にある眼には色素が無い（眼が無いように見える）、といった特徴から見分けられるそうです。貝塚市産カタツムリで72種目の記録となりました。



ノハラノイシノシタ
(和田太一さん撮影)

スッポン・・・2015年3月21日、近木川下流

小さくても侮れない

カメ目 スッポン科

近木川河口の人工干潟再生地近くで捕まえました。売っているミドリガメのような大きさですが、指で掴むと咬みつこうとして、けっこう迫力があります。近木川の下流で橋の上から大きな個体を見ることがあるのですが、大きな個体は捕まえるのが怖いので、案外、スッポンの記録は少ししかありません。自然遊学館で飼育展示していると、水槽の底から首をすごく伸ばして鼻先を水面から突き出して呼吸する姿を観察することができました。



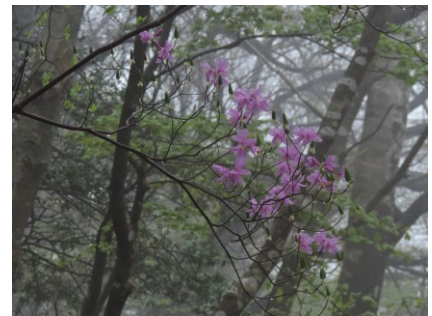
スッポン

コバノミツバツツジ・・・2015年4月21日、和泉葛城山

霞の中でも目立っていました

ツツジ目 ツツジ科

枝先から3枚の葉が開きますが、葉が開く前にピンク色の花が咲くので、春先の和泉葛城山の登山道で特に目立つことになります。この日は霞がかかっている中でも十分に目立っていました。和泉葛城山の山頂付近には、トサノミツバツツジも生えていて、区別がややこしいのですが、子房が短毛に覆われているのがトサノミツバツツジで、子房が長毛に覆われ綿毛のようになっているのがコバノミツバツツジです。



コバノミツバツツジ

オカタツナミソウ・・・2015年5月8日、千石荘（名越）

花の形が波に見える？

シソ目 シソ科

2015年から始めた千石荘昆虫講座では、トンボ観察のベテランである北田誠さんに大いに助けていただきました。北田さんは昆虫・植物・鳥類など多くの動植物のグループにも詳しく、このオカタツナミソウも教えていただきました。花がいろいろな方向を向いていることと、花穂がやや短いことが特徴です。自然遊学館の記録では、和泉葛城山で生息が確認されているだけでした。花の形が波立っている様子に似ていることが和名の由来だそうです。



オカタツナミソウ

アオバセセリ・・・2015年5月14日、和泉葛城山

地味でもなく派手でもなく

チョウ目 セセリチョウ科

青の地色にオレンジ色の斑紋がある翅をもつ美しいセセリチョウです。和泉葛城山の山頂付近に生えているアキグミの花で吸蜜していました。自然遊学館の記録では、貝塚市内では同所だけで、1992～1998年の採集記録がありました。この頃は今よりたくさんいたのかもしれませんが。今回は撮影を主としたので採集できませんでした。幼虫の餌植物で山頂付近に生えているものはアワブキ科のアワブキとミヤマハハソです。



アオバセセリ

クロスジギンヤンマ・・・2015年5月18日、自然生態園

3年ぶりに姿を見ました

トンボ目 ヤンマ科

アメリカザリガニが増えすぎてトンボが減ってしまった「トンボの池」でしたが、2013年7月から2014年の1月に池干しをして、アメリカザリガニの姿を見ることはなくなりました。2014年の春には、池干し中のほとんど水のない池に卵を産んだアカネ属の仲間しか羽化しませんでした。2015年の春にはトンボの羽化殻をたくさん見られ、羽化中や羽化後のトンボを見ることができました。クロスジギンヤンマの羽化は3年ぶりです。



クロスジギンヤンマの羽化

カジカガエル・・・2015年5月28日、木積（近木川上流）

鳴き声はよく聞くのに

カエル目 アオガエル科

近木川上流で春から夏にかけて、フィフィフィフィフィイ・・・という鳴き声はよく聞いているのに、じっくりと撮影する時間がなかなか取れませんでした。この日はいきなりオスを見つけ撮ることができたのですが、藻類(?)の赤色が背景の場所にいたので、雰囲気やや変な写真になってしまいました。結局、ほかのオスは、見つけてもすぐに水中に逃げたり、岩のすき間に逃げたりで、シャッターチャンスはこのオスだけでした。



カジカガエル

ツチゴキブリ・・・2015年6月13日、自然生態園

トンボの池にゴキブリ？

ゴキブリ目 チャバネゴキブリ科

生態園作業日の準備でトンボの池に入っている時でした。小池の中央から生えたコガマの葉に小さなゴキブリが止まっているのを見つけました。見たことのないもので、もしかしてウスヒラタゴキブリかと思ったのですが、腹側が黒いことからツチゴキブリだと分かりました。幼虫越冬で、成虫になる時期に当たります。河川敷の湿った草地にいる種なので、近木川河口のヨシ原から移動してきたのかもしれませんが。自然遊学館の記録で、貝塚市産ゴキブリ目7種目となりました。



ツチゴキブリ

ギンリョウソウ・・・2015年6月30日、和泉葛城山

菌類に寄生する植物

ツツジ目 ツツジ科 シャクジョウソウ亜科

山頂での鳥類調査の時、Aコースの終点付近のカーブで、鳥調査班隊長の食野俊男さんが「ユウレイタケや」と言いました。幽霊茸（ユウレイタケ）は感じが出ていますが別名で、ギンリョウソウが正式な名前です。植物なのに葉緑体を持たず光合成ができません。ベニタケ属の菌類に寄生するとされていて、菌類自体も菌根を形成して樹木から有機物（栄養）を得ているので、ギンリョウソウが得る有機物は樹木由来ということになります。



ギンリョウソウ

モロハタマキビ・・・2015年7月13日、二色の浜

大阪湾の大阪府側では生貝の初記録

盤足目 タマキビ科

海草の一種、アマモの群落がつくる生息場所を「アマモ場」と言います。二色の浜のアマモ場での調査において、アマモの葉の分かれ目で見つけました。そういった場所はおそらく、天敵である小魚から身を守るのに適しているのでしょう。殻の大きさは1cmになるそうですが、この個体は2mm程度でした。大阪湾では由良の成ヶ島で生息が確認されていますが、大阪湾の大阪府側ではこれまでに死貝の記録しかなく、生貝の初記録となりました。



モロハタマキビ

ヒキガエル・・・2015年7月28日、和泉葛城山

体長2cmの幼体の記録は初めて

カエル目 ヒキガエル科

これまで馬場、大川、和泉葛城山への登山道で、6例の記録がありました。そのうち5例は成体で、残りの1例がふ化したての幼生（オタマジャクシ）でした。今回は、成体と形は同じですが、幼体（になりたて）というステージです。体長2cmで、まだアマガエルぐらいの大きさでした。おそらくは昨年につ化して変態したものが、貝塚側からか和歌山県側からか分かりませんが、1年かけて山頂近くに登ってきたものだと思います。



ヒキガエルの幼体

カトウツケオグモ・・・2015年8月4日、馬場

馬場で珍しいクモを発見

クモ目 カニグモ科

布村和彦さん（岸和田市在住）が馬場でこれまで自然遊学館の記録になかったクモを見つけてくれました。世界七大珍グモと言われることもあります。それはオーバーで、泉州でも記録はあったようです（大阪府レッドリスト 2014、情報不足）。写真は翌日に自然遊学館わくわくクラブの喜多理恵さんが撮影されたものを展示しました。布村さんには、その時の様子を自然遊学館だよりに書いてもらったのですが、猛禽類のハチクマも撮影されていて、その記録もとても重要なものです。



カトウツケオグモ
(喜多理恵さん撮影)

トゲアリ・・・2015年8月4日、千石荘

最後まで気を抜いてはいけない？

ハチ目 アリ科

路上のニイニイゼミの死体にアリがたかっていました。ムネアカオオアリかなと思いながら、暑さに負けて、疲れ切っていたので、ファインダーも見ずに適当にシャッターを押しました。でも、採集した1個体を帰ってからよく見ると、背面に大きな棘があるトゲアリで、これまで自然遊学館に標本がない種でした（貝塚市産アリ科で56種目）。他のアリの巣を乗っ取る社会寄生性のアリで、貴重な記録なのに、ピンボケの写真と標本1点だけしか手元に残りませんでした。



トゲアリ

カブトムシ・・・2015年8月4日、千石荘

昼間から堂々と呑んでました

コウチュウ目 コガネムシ科

クヌギの樹液にカブトムシのオス成虫が来ていました。メス成虫が昼間から樹液に来ているのを見ることは時々ありましたが、昼間のオス成虫は久しぶりに見ました。千石荘でも10年前と比較すると、樹液の出るクヌギは減りました。伐採による場合もありますし、推測になりますが、幹に穴をあける虫、それを広げる虫が減ったことも原因かもしれません。クヌギの木自体が弱っているようには見えません。この写真のような光景がこれから先も見られますように。



カブトムシ

ミヤマアカネ・・・2015年8月6日、和泉葛城山

8月は和泉葛城山、10月は木積？

トンボ目 トンボ科

自然遊学館の貝塚市産標本の記録では、木積の畑地区での採集例が最も多く、その次は和泉葛城山の山頂付近になります。他は蕎原箱谷からわずかに採集されているだけです。木積と山頂の比較では、8月は山頂での方が多く、10月はほとんど木積での確認です。夏は避暑が目的で山頂付近に移動し、秋に木積まで下りて産卵しているのかもしれませんが。夏に山頂で見かける個体は、岸和田市の相川や、あるいは和歌山県側から上ってきたものである可能性もあります。



ミヤマアカネ

セスジバラウミウシ・・・2015年8月15日、二色の浜

餌のコケムシの上では目立たない

裸鰓目 ネコジタウミウシ科

二色の浜でシュノーケルを使って調査をしていると、ホンダワラコケムシという外肛動物の仲間の群体をあらこちらに見つけました。よく見ると、その上に、体長1cmほどのウミウシが多数付着していました。このコケムシを摂食するセスジバラウミウシで、これまで自然遊学館の記録にない種でした。白地に茶色の網目模様と体から突き出たトゲトゲによって派手な色形をしているのですが、これがホンダワラコケムシの上にいるとあまり目立ちません。



セスジバラウミウシ

トンビマイタケ・・・2015年8月18日、和泉葛城山

成長の様子を記録することが出来ました

タマショレイタケ目 トンビマイタケ科

山頂の登山道脇に生えたブナの根元から出ていました。最初に見たときは小さくて、珍しい天然マイタケかなと思ったのですが、1ヶ月の間に5回見に行って成長を観察し、トンビマイタケだと分かりました。9月15日には高さが20cmほどになっていて、トビが羽根を広げて舞うイメージに近づいたかもしれません。この株は林道の脇に生えていたのに、誰も採らないで、朽ちていきました。マイタケの方はブナよりもナラ類から生えることが多いそうです。



トンビマイタケ

スジチャダイゴケ・・・2015年9月8日、馬場

コケという名前のキノコです

チャダイゴケ目 チャダイゴケ科

落葉の積もった林床の落枝や落葉から生えていました。キノコという感じがしませんが、スッポンタケやツチグリと同じ腹菌類の仲間です。「カップ」に白いフタがあるのが若い菌で、成熟するとフタがなくなります。成熟したものでは、カップの中に、胞子が詰まった小塊粒が入っていて、それが水滴に弾け出されて、その小塊粒から出ている粘る糸が植物に絡まるそうです。採集したもので試してみましたが、胞子が未成熟だったらしく、小塊粒は飛び出しませんでした。



スジチャダイゴケ

シメクチマイマイ・・・2015年9月8日、馬場

73種目のカタツムリはキノコ好き？

柄眼目 ナンバンマイマイ科

雑木林の林床でキイロイグチというキノコを見つけました。傘の裏面の写真を撮るために、抜いてひっくり返すと、柄に近い部分にカタツムリが付いていました。裏面を摂食していたようです。自然遊学館に展示している標本と見比べても、同じと言いつけるものはありません。年が明けて、児嶋格先生に見てもらおう機会があり、シメクチマイマイという珍しい種だと教えてもらいました。まだ殻口が完全に出来上がる手前の個体でした。



シメクチマイマイ

ギンリョウソウモドキ・・・2015年9月28日、蕎原

“モドキ”と付いても生態は同じ

ツツジ目 ツツジ科 シャクジョウソウ亜科

天満和久さん（NPO 法人大阪自然史センター）から教えてもらって撮影に行きました。色と形がギンリョウソウに似ていますが、花の時期が違って秋に咲くので、アキノギンリョウソウという別名があります。ギンリョウソウと同じく、葉緑体を持たず光合成をしないで、菌類から有機物（栄養）を得ています。その場所には、いろいろなキノコが生えていましたが、どれに寄生していたのかは分かりません。天満さんは車中からマムシを見て車を降りて見つけたそうです。この写真を撮った5日後に再訪した時にも、近くにマムシがいました。



ギンリョウソウモドキ

マツムシ・・・2015年9月29日、三ツ松

行事でのスライド説明に間に合う

バッタ目 マツムシ科

マツムシは昼間の調査では、メス成虫に出会う方が多く、オス成虫を撮影する機会はありません。やっと、善兵衛ランドとの共催行事の下見でオス成虫を撮影できました。慰霊塔前の斜面で植栽木以外が草刈りされて、草にひそんでいたマツムシも植栽木に集まっていました。コオロギ類は翅を立てて、右の前翅を上にして、その裏にある「ヤスリ」を左の前翅の表面にこすり合わせて発音するのですが、その様子が分かります。



マツムシ

アユ・・・2015年10月21日、堤（近木川下流）

もしかして産卵？

キュウリウオ目 キュウリウオ科

前の月に行われたアユ調べの行事では、近木川河口近くの防潮堰堤（新井井堰）でアユを確認できなかったのですが、参加者の西出龍生さんから「もっと上流側にいる」ことを教えてもらいました。その場所は、近木川全体からみると下流の上流側になります。今回も、西出さんから「アユが群れている」という連絡を受けて見に行くと、アユが多数群れていて、写真と動画を撮ることができました。産卵していたのかもしれませんが、卵は確認できませんでした。



アユの群れ

リンドウ・・・2015年10月24日、木積

竜胆という漢字は、感じが違う？

リンドウ目 リンドウ科

木積の耕作地周辺にリンドウの花が咲いていると、北田誠さんに教えてもらいました。三ツ松在住の北田さんには、ここで紹介したオカタツナミソウやリンドウのほかにも、貴重な昆虫や植物の情報をいただきました。リンドウは、かつては水田周辺の草地やため池の堤などにふつうに見られたそうですが、最近では貝塚市内でもほとんど見かけなくなりました。草刈りが頻繁に行われるような草丈の低い草地に生えるのに、そういう手入れがされなくなったからでしょう。木積でも株数で言えば、10数株程度というところでした。



リンドウ

タケノコカワニナ・・・2015年11月7日、汽水ワンド

5年ぶりに稚貝を発見

吸腔目 トゲカワニナ科

タケノコカワニナの大坂湾での記録はとて少なく、大阪府レッドリスト2014で絶滅危惧I類という絶滅の可能性が「高い」ランクに指定されています。近木川河口で2010年に稚貝が1個体確認され、今年11月7日に近木川河口干潟再生地（汽水ワンド）で、11月28日に近木川河口で、稚貝が1個体ずつ確認されました。まだ成貝の確認はなく、うまく発育できる条件の場所が近木川河口付近にもあればと思います。



タケノコカワニナ

カスミカメムシ科の不明種・・・2015年11月19日、街中

カメムシの専門家に同定を依頼中です

カメムシ目 カスミカメムシ科

10月1日に岸和田市で採集された1個体から話は始まります。カメムシの分類が専門の先生に同定を依頼しました。その関係で、伊丹市昆虫館の長島聖大さんからクスノキが被害を受けていると聞き、岸和田市の採集地近くのクスノキに多数がたかっているのが見つかりました。話はここで終わらず、11月19日に毎月1回行っている街中昆虫調査で、市民の森から貝塚駅下がりまでのすべてのクスノキが被害を受けていることが分かりました。



カスミカメムシ科の不明種

コンゴウフグ・・・2015年11月21日、二色の浜

毒も！角も！防御がかわいさを生む？

フグ目 ハコフグ科

黒岩直美さんが採集し、食野俊男さんが自然遊学館に運んでくれました。facebook に画像を投稿すると、「かわいい」というコメントをいただきました。それにユーモラスですね。でも、フグの仲間なので、毒を持っています。体全体を硬くして、魚特有の体をくねらせて泳ぐことを止めて、角を生やして、防御をガチガチにしたら、ユーモラスでかわいくなりました、という不思議な魚です。



コンゴウフグ

ツルリンドウ・・・2015年12月2日、蕎原

実を垂らすことができない場合は

リンドウ目 リンドウ科

和泉葛城山への林道脇に生えていたツルリンドウです。何かの木に巻き付いたツルリンドウは実を垂らすだけでもいいけど、地面を這わざるを得なかったものは実を垂直に立てるのだと認識しました。頑張らざるを得ない立場の実もあるんですね。よく見ると、横向きになっている実も少しあるけど、その程度には、怠け者がいても大丈夫ということなのでしょう。



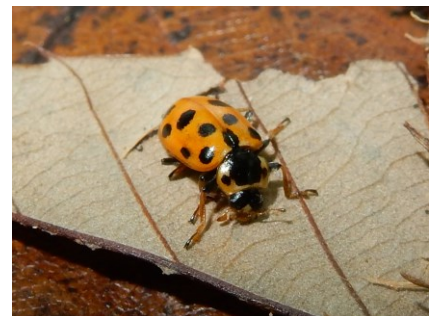
ツルリンドウ

ジュウサンホシテントウ・・・2015年12月8日、海塚

冬の街中で準絶滅危惧種を発見

コウチュウ目 テントウムシ科

昆虫は種類が多いので、うろ覚えの仲間もたくさんいます。街中昆虫調査のルートにある、民家に囲まれた小さな草むらで、「何ハムシかな～」と思いながらフィルムケースに入れました。館に持ち帰って、図鑑で調べてテントウムシの仲間だと知り、さらに準絶滅危惧だと分かって、驚きました。元々、河口や海岸のヨシ原にすみ、幼虫と成虫ともアブラムシを食べるそうです。自然遊学館の記録で貝塚産テントウムシ科で 29 種目となりました。



ジュウサンホシテントウ

カタクチイワシ・・・2015年12月25日、貝塚人工島

何かに追われて逃げてきた？

ニシン目 カタクチイワシ科

岸和田市で中学校教師をされている覚野信行先生が「人工島でイワシがたくさん打ち上がっている」と知らせに来てくれました。すぐに見に行くと、カタクチイワシが浅い場所に群れていました。口が目の後ろまで大きく開くことで、他のイワシと見分けることができます。おそらく10万匹はいたと思います。「何かに追われてきたのかな？」と言っていると、年が明けてから、ほとんど同じ場所にスナメリの死体が打ち上がりました。関係があったかどうかは分かりません。

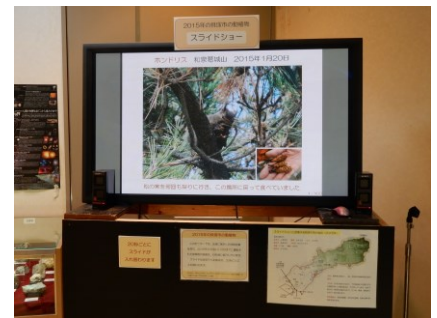


カタクチイワシの群れ

2. スライドショー

A3で印刷したものも含めて100枚の動植物の写真を幅108cmの大型モニターで、パワーポイントを使用して20秒ごとに日付順に入れ替わるように提示しました。100枚の写真はいずれも2015年に貝塚市内で撮影されたものです。

BGMとして、「フリーBGM・music is VFR」からダウンロードした、田舎の大草原と等身大の日常の2曲を使用しました。以下に、スライドショーで使用した画像のリストを示しました。寄贈していただいた写真を使用したものは、備考欄に撮影者の氏名を示しました。



スライドショーを提示した大型モニター

特別展「2015年の自然遊学館の出来事」においてスライドショーで提示した画像一覧-1

日付	区分	種名など	場所	解説	備考
1月20日	哺乳類	ホンドリス	和泉葛城山	○	
1月27日	魚	タケノコメバル	貝塚人工島		
2月7日	軟体動物	ノハラノイシノシタ	貝塚人工島	○	和田太一さん撮影
2月10日	鳥	ケリ	近木川河口		準絶滅危惧（大阪府RL）
3月2日	植物	ヤマモモ	千石荘		
3月4日	鳥	オオジュリン	近木川河口		準絶滅危惧（大阪府RL）
3月4日	軟体動物	ヌマガイ	千石荘		絶滅危惧Ⅱ類（大阪府RL）
3月6日	昆虫	ラクダムシの幼虫	二色の浜公園		
3月12日	植物	ツクシ（スギナ）	麻生中		
3月21日	爬虫類	スッポン	近木川河口	○	
3月26日	鳥	エナガ	水間公園		
3月28日	哺乳類	ネコ	自然生態園		
3月31日	植物	ユキワリイチゲ	蕎原		準絶滅危惧（大阪府RL）
4月9日	鳥	ヒガラ	和泉葛城山		
4月9日	鳥	ヤマガラ	和泉葛城山		
4月19日	軟体動物	ギュリキマイマイ	自然遊学館		
4月21日	植物	コバノミツバツツジ	和泉葛城山	○	
4月23日	植物	ホウチャクソウ	馬場		

特別展「2015年の自然遊学館の出来事」においてスライドショーで提示した画像一覧-2

日付	区分	種名など	場所	解説	備考
5月2日	植物	キンラン	馬場		絶滅危惧Ⅱ類(大阪府RL)
5月6日	昆虫	ヨツボシトンボ	千石荘		準絶滅危惧(大阪府RL)
5月8日	植物	オカタツナミソウ	千石荘	○	
5月8日	昆虫	アケビコノハの幼虫	千石荘		
5月14日	昆虫	アオバセセリ	和泉葛城山	○	準絶滅危惧(大阪府RL)
5月14日	植物	キバナチゴユリ	蕎原		絶滅危惧Ⅰ類(大阪府RL)
5月18日	昆虫	クロスジギンヤンマ	自然生態園		
5月19日	植物	ハマボウフウ	二色の浜		絶滅危惧Ⅰ類(大阪府RL)
5月20日	爬虫類	イシガメ	石才		準絶滅危惧(大阪府RL)
5月21日	昆虫	ヒラタクワガタ	半田		
5月27日	昆虫	セイヨウシミ	自然遊学館		
5月28日	両生類	カジカガエル	木積(近木川上流)	○	
5月29日	昆虫	ウスバキトンボの幼虫	二色		
5月31日	魚	アカエイ	近木川河口		
5月31日	甲殻類	コメツキガニ	近木川河口		準絶滅危惧(大阪府RL)
5月31日	魚	スズキの幼魚	近木川河口		
6月4日	昆虫	ハラビロカマキリの幼虫	千石荘		
6月10日	昆虫	ウスギヌカギバ	和泉葛城山		
6月13日	昆虫	ツチゴキブリ	自然生態園	○	
6月15日	昆虫	アカホシテントウ	汽水ワンド		
6月15日	昆虫	ハマベエンマムシ	二色の浜		
6月20日	魚	キュウセン	近木川河口		
6月22日	哺乳類	アナグマ	蕎原		準絶滅危惧(大阪府RL)
6月28日	魚	アユ	近木川下流		準絶滅危惧(大阪府RL)
6月28日	甲殻類	イワガニ	近木川河口		
7月8日	植物	ギンリョウソウ	和泉葛城山	○	
7月9日	環形動物	ウマビル	脇浜		
7月13日	軟体動物	モロハタマキビ	二色の浜	○	
7月13日	軟体動物	ナガオカモノアラガイ	汽水ワンド		準絶滅危惧(大阪府RL)
7月17日	昆虫	ギンヤンマ	自然生態園		
7月20日	植物・動物	アマモ場にすむもの	二色の浜		
7月28日	菌類	タマゴタケ	和泉葛城山		
7月28日	両生類	ヒキガエル	和泉葛城山	○	絶滅危惧Ⅱ類(大阪府RL)
8月2日	魚	マツダイ	二色の浜		
8月2日	魚	ソウシハギ	二色の浜		
8月4日	昆虫	カブトムシ	千石荘	○	
8月4日	昆虫	トゲアリ	千石荘	○	
8月5日	クモ	カトウツケオグモ	馬場	○	喜多理恵さん撮影
8月6日	昆虫	ミヤマアカネ	和泉葛城山	○	
8月7日	魚	アケボノチョウチョウウオ	二色の浜		
8月15日	軟体動物	セスジイバラウミウシ	二色の浜	○	
8月18日	菌類	トンビマイタケ	和泉葛城山	○	
8月20日	植物	タヌキマメ	千石荘		絶滅危惧Ⅱ類(大阪府RL)
9月1日	昆虫	サツマヒメカマキリの幼虫	千石荘		
9月2日	菌類	トンビマイタケ	和泉葛城山		
9月8日	軟体動物	シメクチマイマイ	馬場	○	
9月8日	菌類	スジチャダイゴケ	馬場	○	準絶滅危惧(大阪府RL)
9月10日	植物	ヤブミョウガ	水間公園		
9月10日	菌類	ハリガネオチバタケ	水間公園		
9月12日	魚	ミナミイケカツオ	近木川河口		
9月12日	軟体動物	オチバガイ	近木川河口		
9月15日	菌類	ムラサキアセタケ	蕎原		
9月22日	軟体動物	ヤマナメクジ	三ツ松		
9月23日	昆虫	ビロードスズメの幼虫	脇浜		
9月26日	魚	ヒナハゼ	近木川下流		
9月28日	菌類	ベニナギナタタケ	蕎原		
9月29日	植物	セトウチホトトギス	蕎原		準絶滅危惧(大阪府RL)
9月29日	昆虫	マツムシ	三ツ松	○	
9月29日	爬虫類	ヤマカガシ	蕎原		

特別展「2015年の自然遊学館の出来事」においてスライドショーで提示した画像一覧-3

日付	区分	種名など	場所	解説	備考
10月3日	植物	ギンリョウソウモドキ	蕎原	○	
10月3日	爬虫類	マムシ	蕎原		
10月8日	菌類	ツキヨタケ	和泉葛城山		準絶滅危惧 (大阪府RL)
10月9日	昆虫	アキアカネ	千石荘		準絶滅危惧 (大阪府RL)
10月15日	昆虫	ハラビロカマキリ	二色		
10月21日	魚	アユ	堤 (近木川下流)	○	準絶滅危惧 (大阪府RL)
10月22日	菌類	ウスキブナノミタケ	和泉葛城山		準絶滅危惧 (大阪府RL)
10月29日	植物	リンドウ	木積	○	
10月29日	鳥	カシラダカ	馬場		準絶滅危惧 (大阪府RL)
11月5日	植物	ブナ	和泉葛城山		
11月5日	植物	ブナ	和泉葛城山		
11月7日	軟体動物	タケノコカワニナ	汽水ワンド	○	
11月21日	魚	コンゴウフグ	二色の浜	○	
11月24日	植物	アベマキの落葉	水間公園		
11月24日	鳥	コゲンカンドリ	近木川河口		藤村雅志さん撮影
11月25日	鳥	ズグロカモメ	近木川河口		藤村雅志さん撮影
12月2日	植物	ツルリンドウ	蕎原	○	
12月8日	昆虫	ジュウサンホシテントウ	海塚	○	準絶滅危惧 (大阪府RL)
12月8日	昆虫	カスミカメムシ科の不明種	街中	○	
12月14日	クモ	ジグモの巣	千石荘		
12月14日	植物	アベマキ	千石荘		
12月26日	魚	カタクチイワシ	貝塚人工島		
12月31日	鳥	オナガガモとヒドリガモ	近木川河口		

3. 昆虫標本

2015年に貝塚市内で採集された昆虫標本のうち、自然遊学館初記録種や絶滅危惧種など46点、自然生態園「トンボの池」で採集されたトンボの羽化殻、および市民の森公園で採集されたクマバチの巣の痕を展示しました。



昆虫標本箱 1



昆虫標本箱 2



トンボの羽化殻

4. 貝殻標本

2015年度は、日本財団「海の学びミュージアムサポート」から助成を受けて、8月に2箇所のウミガメ産卵地見学に行きました。和歌山県南部千里ヶ浜（8月1日）と兵庫県由良成ヶ島（8月29日）で行った行事の際に採集された貝殻の標本を展示しました。



貝類のリストと標本

5. 生きものカード

写真やスライドショーで紹介した生きものの画像を六角形（幅 5.4 cm×高さ 6.1 cm）に切ってカードを作り、裏面に種名を貝塚市内での生息場所を示し、貝塚市の地図上に置いて、手に取って見ることができるようにしました。



生きものカードを置いた貝塚市の地図



カードの裏面

6. 千石荘樹木調査の解説と樹木写真

自然遊学館では、貝塚市の中央部に残された千石荘の里山で、2012年度から大木の調査を行ってきました。2015年3月末までに調査した291本の大木の樹種、および各樹種の写真を展示しました。大木を根元から見上げて撮影したものを2枚用意し、底面に樹種を示したプレートを含んで、来館者が手に取って種名を知るように工夫しました。



千石荘樹木調査の解説

7. 行事一覧

上記のウミガメ産卵地見学のほかにも、日本財団「海の学びミュージアムサポート」から助成を受けて、近木川河口や二色の浜において、海辺の生きもの観察、釣り体験、シュノーケリング&アマモ場観察、海藻おしば製作&ウミホテル観察、打ち上げ貝拾い、などの行事を行いました。その他、七草摘みハイキングや近木川のアユ調べ、虫と星の観察会などの恒例行事も実施しました。それらの概要を写真とともに紹介しました。



2015年の行事一覧

以上、特別展「2015年の自然遊学館の出来事」において展示した写真や標本の紹介をしました。